預言者伝（スィーラ）

第 5 巻

悲しみの年

ボイコット、愛する二人との別れ、そしてターイフへの旅



Hj Che Alim Hj Che Haron
AK (Kelantan)
quranscience.my

© 2026 年 / 1448 AH Hj Che Alim Hj Che Haron AK (Kelantan) • quranscience.my • @QuranScienceMY
この電子書籍はムスリムのための無料版です — 販売禁止。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

預言者伝（スィーラ）

第 5 巻

悲しみの年

クルアーンと真正なハディースに基づく、ハーシム家へのボイコット、
アブー・ターリブとハディージャの逝去、そしてターイフへの旅

فَإِنَّ مَعَ ٱلْعُسْرِ يُسْرًا

「本当に困難と共に、安楽はあり、」

胸を広げる章 94:5

HJ CHE ALIM HJ CHE HARON

quranscience.my | @QuranScienceMY

© 2026 年 / 1448 AH quranscience.my — 無料の電子書籍。販売禁止。

謝辞

あらゆる困難に安楽を伴わせられたアッラーに一切の称賛あれ。ボイコットされ、見捨てられ、追われたときにも忍耐された私たちの主、預言者ムハンマド ﷺ と、その家族と教友たちに祝福と平安あれ。

この電子書籍を、最愛の妻

ザハラ・モハマド・ラティフ；

愛する子どもたち、

ムハンマド・ハフィズ、ヌール・ハズワニ、アブドゥル・ハキム、ヌール・ヒダヤ、ノル・アキラ、ノル・アティカ；

そして義理の子どもたち、

ファジラ、マレク、ハニン、ファイリザル、フィルワンに捧げます。

『預言者伝（スィーラ）』の第 5 巻は、マッカにおけるアッラーの使徒 ﷺ の生涯で最もつらい年月をたどります。シッブ・アビー・ターリブでのボイコット、アブー・ターリブとハディージャの逝去、そしてターイフへの旅です。かれの忍耐が試練に遭う心の慰めとなりますように。そしてこの知識が「イルムン・ユンタファウ・ビヒ」、すなわち役に立つ知識となりますように。

この電子書籍の表紙について

この電子書籍の表紙には人物は描かれていません。描かれているのは、**夕暮れのターイフの山あいの岩の道**です。岩山のあいだを曲がりくねる静かな小道、ふもとの緑の**ぶどう畑**、そして夕日の光の下でその道を覆う**雲の群れ**です。

静かな道は、悲しみの年にアッラーの使徒 ﷺ が歩まれたターイフへの旅を表しています。果樹園はかれが身を休めた場所を、雲はカルン・アッ＝サアーリブでかれを覆った雲を思い起こさせます（『サヒーフ・ブハーリー』3231）。

下部の紺色の帯は、**細い金色の線**に縁取られ、著者名が記される場所です。

目次

悲しみの年 — はじめに
1. クライシュ族が手段を尽くしたとき — 背景
2. ハイフ・バニー・キナーナでの盟約 — 『サヒーフ・ブハーリー』1590
3. シッブ・アビー・ターリブでの三年間 — スィーラの注
4. ひそかな援助 — スィーラの注
5. 盟約を破棄した五人 — スィーラの注
6. シロアリに食われた文書の話 — 伝承の評価
7. ボイコットからの教訓 — 教訓の表
8. ハディージャの逝去 — スィーラの注
9. 臨終のアブー・ターリブ — 『サヒーフ・ブハーリー』3884
10. 「あなたは導くことはできない」 — 物語章 28:56
11. アブー・ターリブの位置づけ — 『サヒーフ・ブハーリー』3883
12. 悲しみの年 — 二本の柱の図
13. サウダ・ビント・ザムア — スィーラの注
14. ターイフへ — マッカ〜ターイフの地図
15. サキーフ族の拒絶 — スィーラの注
16. ウトバとシャイバの果樹園で — スィーラの注
17. ターイフでの祈り：その評価 — 伝承の評価
18. 最もつらい日 — 『サヒーフ・ブハーリー』3231
19. クルアーンを聞いたジン — 砂丘章 46:29〜30
20. ムトイムの保護のもとでの帰還 — 『サヒーフ・ブハーリー』3139
21. 困難と共に安楽はある — 胸を広げる章 94:5〜6
22. 真正な伝承と有名な話のあいだ — 伝承の評価
23. このシリーズの重要な場所 — シッブ・アビー・ターリブからターイフまで
24. ターイフとサキーフ族 — 山の上の町
25. 歴史の足跡：歴史記録に見るターイフとマッカ — ヒジュラ暦 58 年の碑文とハジューン
26. このシリーズの人物 — 人物の表
27. 年表：スィーラと世界 — 西暦 617〜622 年の出来事の表
28. よくある質問 — 12 の質問

29. 教訓と結び

参考文献

支援と寄付

色の見方：緑の枠 = クルアーンの節；金色の枠 = ハディース；茶色の枠 = スィーラの注（スィーラ書の伝承）；青い表 = 比較。青い下線の伝承者名をクリックすると、sunnah.com の伝承者のページが開く。

悲しみの年

『預言者伝』第4巻は、ハムザとウマルの入信、そしてナジャーシーの庇護のもとで無事に過ごす教友たちで終わりました。しかしマッカにいるアッラーの使徒 ﷺ とその家族にとって、最も重い試練は始まったばかりでした。この第5巻は、**三年に及ぶボイコット**、かれを最も守り支えた二人――**アブー・ターリブとハディージャ**――の逝去、そして石と血で終わりながらも慈悲に満ちた祈りで結ばれた**ターイフへの旅**を語ります。

本書のクルアーンの節と真正なハディースは、本当に関係のあるものだけを慎重に選びました。スィーラ書からの話は「スィーラの注」の枠に入れ、その等級を評価しています。非常に有名でも伝承経路の弱い話や祈りは、そのことをはっきりと示しています。

年表：ボイコットからターイフまで（617〜620年ごろ）

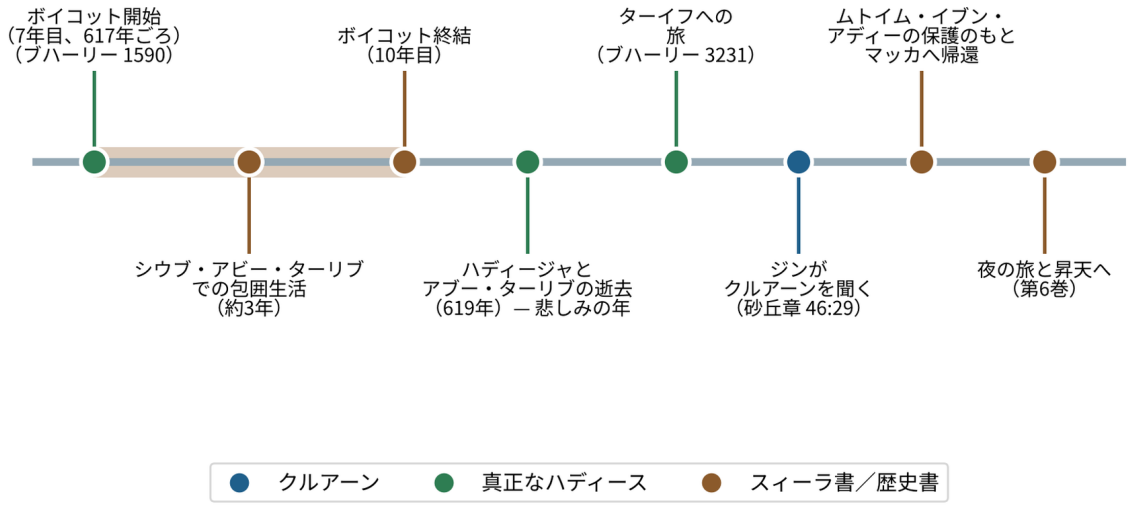


図1：ボイコットからターイフまでの年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。スィーラ書からの情報は茶色の「スィーラの注」の枠に入れ、歴史的事実には出典のリンクを付している。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

クライシュ族が手段を尽くしたとき

預言者として遣わされて7年目が近づく頃、クライシュ族はほとんどあらゆる手段を試していました。嘲笑、中傷、交渉、妥協の申し出、そして拷問です（第4巻）。それでもイスラームは広がり続けました。ハムザとウマルが入信し、ハバシャの教友たちは公正な王の保護のもとで平穏に暮らしていました。

クライシュ族にとって最大の問題は、**ハーシム家の保護**でした。ハーシム家の長アブー・ターリブが甥を引き渡すことを拒む限り、クライシュ族の諸氏族のあいだに内戦を起こさずにかれを殺すことはできなかったのです。

クライシュ族を阻んだもの	理由
部族の保護	アブー・ターリブとハーシム家は、まだイスラームに入っていない者も含めて、かれを守りました。
血の報復の掟	ある氏族の一員を殺すことは、その氏族全体との戦争を意味しました。
イスラームの強まり	ハムザやウマルのような有力者が信仰に入っていました。
外交の失敗	ハバシャへの使節は手ぶらで帰ってきました。

そこでクライシュ族は、血を流さないが非常に苦しい新しい武器を選びました。ムスリムであるかどうかを問わず、ハーシム家とムッタリブ家の全体に対する**全面的なボイコット**です。

教訓：暴力が失敗すると、真理に反対する者はしばしば**経済的・社会的な圧力**に切り替えます。この武器は今日でも使われています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハイフ・バニー・キナーナでの盟約

ボイコットは文書による盟約で確定されました。何年も後、別離の巡礼を行っていたとき、アッラーの使徒 ﷺ はその盟約が結ばれた場所をまだ覚えておられました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 1590 番

حَدَّثَنَا الْحُمَيْدِيُّ، حَدَّثَنَا الْوَلِيدُ، حَدَّثَنَا الأَوْزَاعِيُّ، قَالَ حَدَّثَنِي الزُّهْرِيُّ، عَنْ أَبِي سَلَمَةَ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ قَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم مِنَ الْغَدِ يَوْمَ النَّحْرِ وَهُوَ بِمِنًى «نَحْنُ نَازِلُونَ غَدًا بِخَيْفِ بَنِي كِنَانَةَ حَيْثُ تَقَاسَمُوا عَلَى الْكُفْرِ». يَعْنِي ذَلِكَ الْمُحَصَّبَ، وَذَلِكَ أَنَّ قُرَيْشًا وَكِنَانَةَ تَحَالَفَتْ عَلَى بَنِي هَاشِمٍ وَبَنِي عَبْدِ الْمُطَّلِبِ، أَوْ بَنِي الْمُطَّلِبِ أَنْ لاَ يُنَاكِحُوهُمْ، وَلاَ يُبَايِعُوهُمْ حَتَّى يُسْلِمُوا إِلَيْهِمُ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم. وَقَالَ سَلاَمَةُ عَنْ عُقَيْلٍ وَيَحْيَى بْنُ الضَّحَّاكِ عَنِ الأَوْزَاعِيِّ أَخْبَرَنِي ابْنُ شِهَابٍ وَقَالاَ بَنِي هَاشِمٍ وَبَنِي الْمُطَّلِبِ. قَالَ أَبُو عَبْدِ اللَّهِ بَنِي الْمُطَّلِبِ أَشْبَهُ.

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه は言った。預言者 ﷺ は犠牲祭の日（ズル・ヒッジャ月 10 日）の朝、ミナーにおられたときに言われた。「**明日、われわれはハイフ・バニー・キナーナに宿営する。かれらが不信仰（を守るため）に誓い合った場所である。**」それはムハッサブのことである。というのは、クライシュ族とキナーナ族が、ハーシム家とアブドルムッタリブ家――あるいはムッタリブ家――に対して同盟を結び、預言者 ﷺ をかれらに引き渡すまでは、かれらと婚姻を結ばず、売り買いもしないと誓ったからである。

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：アル＝フマイディー ← アル＝ワリード・ブン・ムスリム ← アル＝アウザーイー ← アッ＝ズフリー ← アブー・サラマ ← アブー・フライラ رضى الله عنه。サラマ ← ウカイル、およびヤフヤー・ブン・アッ＝ダッハーク ← アル＝アウザーイー ← イブン・シハーブの伝承もある。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』巡礼の書、マッカにおける預言者 ﷺ の宿営の章（ヌズール・アン＝ナビー ﷺ マッカ）、ハディース第 1590 番。ムスリム（第 1314 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:1590

このハディースの教訓

このハディースはボイコットについての**真正な証拠**であり、その二つの主な条件を明らかにしています。**婚姻をしないこと**と**売り買いをしないこと**です。ハーシム家がアッラーの使徒 ﷺ を引き渡すまで続けるというものでした。目的は明らかです。かれの家族に保護を手放させることでした。



図 2：クライシュ族のボイコットの条件。

同じ場所への帰還

学者たちは、かれが勝利した指導者として戻ったときに、クライシュ族が不信仰を誓った**ムハッサブ**にあえて宿営された英知を説明しています。**アッラーの恩恵に感謝し**、かつてイスラームへの不正を目撃した場所でその勝利を示すためでした。

巡礼におけるムハッサブ

ムハッサブ（アブタフとも呼ばれる）は、ミナーとマッカのあいだにある谷です。アッラーの使徒 ﷺ は別離の巡礼でミナーの日々の後にそこに宿営されました。しかしアーイシャ رضى الله عنها は、アブタフに宿営することは巡礼の**スンナではない**と説明しています。かれがそこに宿営されたのは、マッカを出るのにそこが便利だったからです（『サヒーフ・ブハーリー』1765）。

これは、教友たちが、従わなければならない**崇拝行為**と、その時の状況に関わるアッラーの使徒 ***tindakan biasa*** の普通の行動とを注意深く区別していたことを示しています。スンナを理解するうえで大切な原則です。

教訓：アッラーは**状況を逆転させられる**。かつて迫害の証人であった場所が、ついには勝利の証人となりました。

シッブ・アビー・ターリブでの三年間

スィーラの注：包囲された谷での暮らし

スィーラ書（イブン・イスハーク）によれば、ボイコットは**預言者として遣わされて 7 年目のムハッラム月**（西暦 617 年頃）に始まりました。ハーシム家とムッタリブ家は、ムスリムもそうでない者も、マッカのはずれの狭い谷**シッブ・アビー・ターリブ**に移りました。クライシュ族の側についたのは**アブー・ラハブ**ただ一人でした。

盟約の文書はカアバの中に掛けられたと伝えられています。ボイコットは**約三年間**続きました。食べ物を手に入れるのは非常に難しく、スィーラ書は、飢えた子どもたちの泣き声が谷の外まで聞こえ、木の葉を食べざるをえない者もいたと伝えています。

参照：

Wikipedia「Abu Talib ibn Abd al-Muttalib」。https://en.wikipedia.org/wiki/Abu_Talib_ibn_Abd_al-Muttalib

宗教を超えた忠誠

驚くべきことがあります。**まだイスラームに入っていない**ハーシム家の多くの人々が、家族とアブー・ターリブへの忠誠から、アッラーの使徒 ﷺ と共に苦しむことを選んだのです。飢えてもなお、かれらはかれを引き渡すことを拒みました。

アッラーの使徒 ﷺ とハディージャ رضى الله عنها もこの苦難を共に負いました。かつて裕福な商人だったハディージャは、谷の中の家族と教友たちを支えるために残りの財産を使い果たしました。

ほかの教友たちはどうだったか

アブー・バクル رضى الله عنه のようにハーシム家以外の教友は谷の中には住みませんでしたが、やはり激しい圧力にさらされました。アーイシャ رضى الله عنها によれば、アブー・バクルはハバシャへ移住しようとして出発したところで、カーラ族の長**イブン・アッ＝ドゥグンナ**に出会いました。かれは「あなたのような人は出て行くべき

ではないし、追い出されるべきでもない」と言い、自分の保護のもとにかれを連れ戻しました（『サヒーフ・ブハーリー』3905）。

イブン・アッ＝ドゥグンナがアブー・バクルの美点を述べた言葉は、ハディージャがアッラーの使徒 ﷺ に語った言葉とほとんど同じでした。財のない者を助け、親族の絆を保ち、弱い者を支え、客をもてなし、災難のときに手を貸す、というものです。気高い人柄は、まだ信仰していない人々にさえ認められていたのです。

教訓：苦境での忍耐は**信仰のしるし**です。三年間の苦難は、のちのヒジュラや戦いで必要となる粘り強さを育てました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ひそかな援助

スィーラの注：ハキーム・ブン・ヒザームとおばのための小麦

スィーラ書によれば、ハディージャの甥**ハキーム・ブン・ヒザーム**は、谷の中にいるおばのためにひそかに小麦を運んだことがありました。アブー・ジャフルがかれを止めましたが、その残酷さに賛成しないクライシュ族の一人**アブル・バフタリー・ブン・ヒシャーム**が割って入り、かれを通しました。

また、**ヒシャーム・ブン・アムル**が夜に食べ物を積んだラクダを谷の入口へ送ったという伝承もあります。これらの話は**スィーラ書**からのもので、二大サヒーフ集のものではありません。

参照：

ウィキペディア「Hakim ibn Hizam」。https://en.wikipedia.org/wiki/Hakim_ibn_Hizam

ジャーヒリーヤ社会の良心

これらの話は、**クライシュ族のすべての人**がその不正を支持していたわけではないことを示しています。まだ信仰していなくても、人間らしい心を持つ人々がいたのです。アッラーの使徒ﷺはのちにこのような人々の恩を覚えておられました。

ハキーム・ブン・ヒザーム自身も、のちにマッカ征服の日にイスラームに入り、教友となりました。ジャーヒリーヤ時代のかれの善行が、導きへの道を開いたのです。

教訓：**小さな善行**を軽んじてはいけません。包囲された人へのひと包みの食べ物が大きな善行になりうるのです。そして、たとえムスリムでなくても、公正にふるまうすべての人を尊びましょう。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

盟約を破棄した五人

スィーラの注：ボイコットを破棄するための申し合わせ

イブン・イスハークによれば、約三年後、良心をもつ何人かのクライシュ族の人々が、その盟約を破棄しようと申し合わせました。**ヒシャーム・ブン・アムル**、**ズハイル・ブン・アビー・ウマイヤ**、**アル＝ムトイム・ブン・アディー**、**アブル・バフタリー・ブン・ヒシャーム**、そして**ザムア・ブン・アル＝アスワド**です。

かれらはカアバのそばのクライシュ族の集会で立ち上がり、公然と反対を表明しました。アブー・ジャフルは反対しましたが、かれらの声が勝ち、ボイコットは**預言者として遣わされて10年目**ごろに終わりました。ウィキペディアは、アル＝ムトイム・ブン・アディーをこの動きを始めた五人の指導者の一人としています。

参照：

ウィキペディア「Muṭʿim ibn ʿAdi」。
https://en.wikipedia.org/wiki/Mu%E1%B9%AD%CA%BDim_ibn_%CA%BDAdi

公正な声の力

ボイコットが終わったのは奇跡だけによるのではなく、**勇気をもって声を上げた何人かの人々**が、自分たちの社会の中の不正に立ち向かったからでもありました。かれらは、クライシュ族の集会という既存の場を使って状況を変えたのです。

これは**ヒルフ・アル＝フドゥール**（第2巻）を思い起こさせます。ジャーヒリーヤの社会にさえ、正義の余地はありました。イスラームはこのようなすべての努力を尊びます。

教訓：不正に対する**沈黙**は苦しみを長引かせます。一つの勇気ある声が変化の始まりになりうるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

シロアリに食われた文書の話

スィーラの注：盟約文書の話

スィーラ書によれば、アッラーの使徒 ﷺ はアブー・ターリブに、アッラーが**シロアリ**を遣わして盟約文書を食べさせ、アッラーの御名を記した言葉（「ビスミカ・アッラーフンマ」）だけが残ったと告げられました。アブー・ターリブがそれをクライシュ族に伝え、文書が下ろされると、告げられたとおりであったといいます。

この話はイブン・イスハークや他のスィーラ学者が伝えていますが、**二大サヒーフ集にはなく**、伝承経路は**途切れて（ムルサル）**います。スィーラ書では有名で、多くのスィーラ作家に受け入れられていますが、真正なハディースと同じ等級ではありません。

このような話への向き合い方

項目	立場
ボイコットとその条件	真正（『サヒーフ・ブハーリー』1590）。
五人による破棄	スィーラ書の伝承。一般に受け入れられている。
シロアリに食われた文書	スィーラ書のムルサルの伝承。その等級を述べたうえで語ることができる。

ハディース学者は、歴史として語ってよいスィーラの話と、信条や法規定の**論拠とされるハディース**とを区別しています。この話は前者に属します。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ボイコットからの教訓

シッブ・アビー・ターリブでのボイコットは、どの世代にも通じる多くの教訓を残しました。

教訓	説明
共同体としての忍耐	家族と教友たちの全員が、共に試練を負いました。
武器としての経済	真理の敵は、食料と商取引の封鎖を用いました。
家族の忠誠	まだイスラームに入っていないハーシム家の人々も、かれを守り続けました。
良心ある人々の役割	クライシュ族の五人が不正を破棄しました。
財産の犠牲	ハディージャは家族と教友たちのために財産を使い果たしました。
試練の後の勝利	不信仰を誓った場所が、勝利した預言者の宿営地となりました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

私たちの時代のボイコット

今日も、いくつかの土地のムスリムは**経済封鎖**や包囲に直面しています。スィーラは私たちに、忍耐し、助け合い、そしてムスリムであれ非ムスリムであれ、虐げられた人々を勇敢に弁護するすべての人を尊ぶことを教えています。

主な教訓：**永遠に続く不正はありません。**終わりがないように見えたボイコットも、三年後にはついに崩れ去りました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハディージャの逝去

スィーラの注：最初の信者たちの母の逝去

ウィキペディアによれば、**ハディージャ・ビント・フワイリド** رضى الله عنها はボイコットが終わって間もない**西暦 619 年**、**約 65 歳**で亡くなりました。かの女は 25 年間アッラーの使徒 ***25 tahun*** の妻であり、その間かれのただ一人の妻でした。そのときかれは 50 歳近くでした。

ボイコット中の苦難は、かの女の健康にも影響したと考えられています。かの女は、現在ジャンナト・アル＝ムアッラーとして知られるマッカの墓地**ハジューン**に葬られました。

参照：

ウィキペディア「Year of Sorrow」。https://en.wikipedia.org/wiki/Year_of_Sorrow

ウィキペディア「Khadija bint Khuwaylid」https://en.wikipedia.org/wiki/Khadija_bint_Khuwaylid

真正なハディースもおおよその時期を裏づけています。ウルワ・ブン・アッ＝ズバイルは、ハディージャは預言者 ***tiga tahun sebelum*** がマディーナへ移住する 3 年前に亡くなったと述べています（『サヒーフ・ブハーリー』3896）。

色あせることのない思い出

第 2 巻と第 3 巻は、ハディージャの地位を語りました。最初に信じた人、最初の啓示の夜にかれを落ち着かせた人、そしてジブリールを通してアッラーからの挨拶を受けた女性です（『サヒーフ・ブハーリー』3820）。かの女が亡くなって何年も経ってからも、かれはかの女の名を口にし、かの女の友人たちを大切にされました（『サヒーフ・ブハーリー』3818）。

真正なハディースに見るハディージャの美徳

アリー رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「**（その時代の）最もすぐれた女性はイムラーンの娘マルヤムであり、（その時代の）最もすぐれた女性はハディージャである**」（『サヒーフ・ブハーリー』3432）。

美徳	典拠
最初に信じた人	スィーラ書（第 3 巻）
最初の啓示の夜にかれを落ち着かせた	『サヒーフ・ブハーリー』3
アッラーからの挨拶と楽園の家の吉報を受けた	『サヒーフ・ブハーリー』3820
その時代の最もすぐれた女性	『サヒーフ・ブハーリー』3432
イブラーヒームを除くかれのすべての子の母	スィーラ書（第 2 巻）

教訓：伴侶への**誠実さ**は死で終わりません。亡くなった伴侶のために祈り、その善行を思い出し、その家族や友人を大切にすることは、アッラーの使徒 ﷺ のスンナです。

臨終のアブー・ターリブ

ボイコットが終わって間もなく、40 年以上もかれを育て守ってきたおじ**アブー・ターリブ**が重い病に倒れました。アッラーの使徒 ﷺ は最後の一つの望みを抱いてかれのもとへ来られました。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 3884 番

حَدَّثَنَا مَحْمُودٌ، حَدَّثَنَا عَبْدُ الرَّزَّاقِ، أَخْبَرَنَا مَعْمَرٌ، عَنِ الزُّهْرِيِّ، عَنِ ابْنِ الْمُسَيَّبِ، عَنْ أَبِيهِ، أَنَّ أَبَا طَالِبٍ، لَمَّا حَضَرَتْهُ الْوَفَاةُ دَخَلَ عَلَيْهِ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم وَعِنْدَهُ أَبُو جَهْلٍ فَقَالَ «أَىْ عَمِّ، قُلْ لاَ إِلَهَ إِلاَّ اللَّهُ. كَلِمَةً أُحَاجُّ لَكَ بِهَا عِنْدَ اللَّهِ». فَقَالَ أَبُو جَهْلٍ وَعَبْدُ اللَّهِ بْنُ أَبِي أُمَيَّةَ يَا أَبَا طَالِبٍ، تَرْغَبُ عَنْ مِلَّةِ عَبْدِ الْمُطَّلِبِ فَلَمْ يَزَالاَ يُكَلِّمَانِهِ حَتَّى قَالَ آخِرَ شَىْءٍ كَلَّمَهُمْ بِهِ عَلَى مِلَّةِ عَبْدِ الْمُطَّلِبِ. فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم «لأَسْتَغْفِرَنَّ لَكَ مَا لَمْ أُنْهَ عَنْهُ». فَنَزَلَتْ {مَا كَانَ لِلنَّبِيِّ وَالَّذِينَ آمَنُوا أَنْ يَسْتَغْفِرُوا لِلْمُشْرِكِينَ وَلَوْ كَانُوا أُولِي قُرْبَى مِنْ بَعْدِ مَا تَبَيَّنَ لَهُمْ أَنَّهُمْ أَصْحَابُ الْجَحِيمِ} وَنَزَلَتْ {إِنَّكَ لاَ تَهْدِي مَنْ أَحْبَبْتَ}

訳：

アル＝ムサイヤブ・ブン・ハズン رضى الله عنه によれば、アブー・ターリブが死を迎えようとしていたとき、預言者 ﷺ がかれのもとへ入って行かれた。そのそばにはアブー・ジャフルがいた。かれは言われた。**「おじよ、ラー・イラーハ・イッラッラーと言ってください。その言葉によって、わたしはアッラーのもとであなたのために弁護しましょう。」** アブー・ジャフルとアブドッラー・ブン・アビー・ウマイヤは言った。「アブー・ターリブよ、あなたはアブドルムッタリブの宗教を捨てるのか。」かれらはかれに語りかけ続け、ついにかれがかれらに言った最後の言葉は「（わたしは）アブドルムッタリブの宗教の上にある」であった。預言者 ﷺ は言われた。**「禁じられない限り、わたしは必ずあなたのために赦しを乞おう。」** そこで、{預言者と信者たちは、たとえ近親であっても、かれらが火獄の住人であることが明らかになった後には、多神教徒のために赦しを乞うべきではない} という節が下り、また {本当にあなたは、自分の愛する者を導くことはできない} という節が下った。

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：マフムード・ブン・ガイラーン ← アブドッラッザーク ← マアマル ← アッ＝ズフリー ← サイード・ブン・アル＝ムサイヤブ ← その父アル＝ムサイヤブ・ブン・ハズン رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、アブー・ターリブの話の章、ハディース第 3884 番。ムスリム（第 24 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）―『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3884

このハディースの教訓

このハディースは深く心を打ちます。アッラーの使徒 ﷺ は重いことを求められたのではありません。**一つの言葉**だけでした。その言葉によってアッラーのもとでおじを弁護すると約束されたのです。しかし、**仲間からの圧力**と**先祖の宗教への誇り**が、アブー・ターリブにそれを言わせませんでした。

ムスリムでない親族を見舞う

アッラーの使徒 ﷺ は、まだ信仰していない病のおじを**見舞い**、最後の瞬間まで努められました。かれはまた、病気のユダヤ人の少年を見舞い、イスラームに招かれたこともあります（『サヒーフ・ブハーリー』1356）。

これは、**家族の絆を保つこと**と**病人を見舞うこと**がムスリム同士に限られないことを示しています。見舞いそのものが、最もやさしい宣教の入口になりうるのです。

アブー・ターリブの最期のときに、そのそばにいたのが誰かに注目してください。**アブー・ジャフル**です。悪い仲間は、人生の最後の瞬間にさえ人を善から遠ざけることがあります。

教訓：**唯一神信仰の言葉**は救いの鍵であり、**仲間の影響**は非常に大きいものです。特に最も大切なときにアッラーを思い出させてくれる友を選びましょう。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「あなたは導くことはできない」

おじが不信仰のまま亡くなったことへのアッラーの使徒 ﷺ の悲しみは非常に深いものでした。アッラーは、心を慰め、信条の大切な原則を教える節を下されました。

物語章 28:56

إِنَّكَ لَا تَهْدِى مَنْ أَحْبَبْتَ وَلَٰكِنَّ ٱللَّهَ يَهْدِى مَن يَشَآءُ ۚ وَهُوَ أَعْلَمُ بِٱلْمُهْتَدِينَ ﴿٥٦﴾

本当にあなたは、自分の好む者（の凡て）を導くことは出来ない。だがアッラーは御心のままに導き下される。かれは導かれた者を熟知なされる。

訳：三田了一 — quran.com/28:56

28:56 の節の解説

アッラーは仰せられます。「**本当にあなたは、自分の愛する者を導くことはできない**」。イブン・カスィールは、この節が二大サヒーフ集にあるとおり**アブー・ターリブ**について下ったと述べ、使徒の務めは**伝えること**であり、導きは**アッラーだけのもの**であると説明しています。『タフスィール・イブン・カスィール』28:56。

二種類の導き

種類	説明
イルシャードの導き（道案内）	道を示すこと。これは使徒と宣教者の務めです（協議章 42:52）。
タウフィークの導き（心を開かせること）	心を開いて受け入れさせること。これはアッラーだけのものです（物語章 28:56）。

この節は、努力したのに愛する人が真理を受け入れないのを見たすべての親、伴侶、宣教者に安らぎを与えます。**私たちの務めは努力すること**であり、結果はアッラーの御手にあります。

この節と共に、多神教徒の立場が明らかになった後にかれらのために赦しを乞うことの禁止も下りました（悔悟章 9:113）。同じハディースに述べられているとおりです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブー・ターリブの位置づけ

アル＝アッバース・ブン・アブドルムッタリブ رضي الله عنه はアッラーの使徒 ﷺ に尋ねたことがあります。「あなたはおじに何か益を与えられましたか。アッラーにかけて、かれはあなたを守り、あなたのために怒っていました。」かれは言われた。**「かれは火獄の浅いところにいる。わたしがいなければ、かれは最も深い底にいたであろう」**（『サヒーフ・ブハーリー』3883）。

別のハディースは、アブー・ターリブが火獄の住人の中で**最も軽い懲罰**を受ける者であると述べています（『サヒーフ・ムスリム』212）。これは、アッラーの使徒 ﷺ を守ったかれの功績が**認められている**こと、しかし信仰がなければ完全な救いにはつながらないことを示しています。

アブー・ターリブについて語る作法

アブー・ターリブはイスラームに**大きな功績**のある人物です。私たちはかれの功績を敬意をもって語り、かれを非難せず、同時にかれの位置づけについての真正なハディースを固く守ります。この二つの態度は矛盾しません。

教訓：**信仰なき善行**は来世の救いには十分ではありません。信仰こそが、あらゆる善行をアッラーのもとで十全な価値あるものにする土台なのです。

悲しみの年

同じ年――預言者として遣わされて 10 年目、**西暦 619 年**ごろ――アッラーの使徒ﷺはこの二人をともに失われました。二人が亡くなった**順序**についてはスィーラ書で意見が分かれています。ウィキペディアによればハディージャが先に、次にアブー・ターリブが亡くなりましたが、逆とする資料もあります。

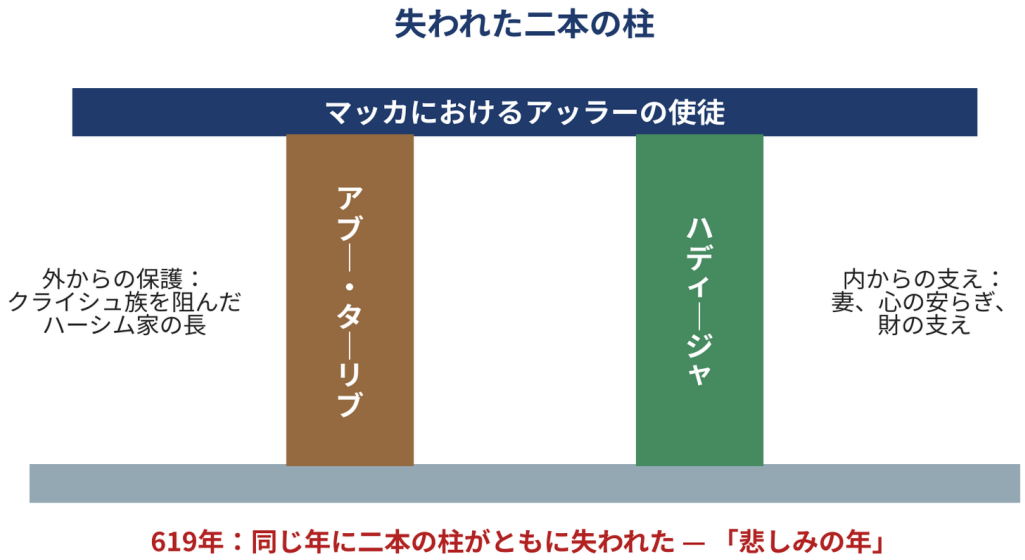


図 3：悲しみの年に失われた二本の柱。

この年はのちに**アーム・アル＝フズン**、つまり**悲しみの年**として知られるようになりました。アブー・ターリブは**外からの守り**、ハディージャは**内からの支え**でした。二人を同時に失ったことで、かれは最も無防備な状態に置かれたのです。

宣教への影響

スィーラ書によれば、アブー・ターリブの死後、クライシュ族はますます大胆にかれを苦しめるようになり、かれの頭に土を投げつける者さえいました。ハーシム家は今や、かれ自身の敵であるアブー・ラハブに率いられていました。

このような状況の中で、かれは**マッカの外に支援**を求めることを決意されました。最初に選ばれたのがターイフの町でした。

悲しみに向き合うスンナ

アッラーの使徒 ﷺ は、均衡のとれた悲しみ方を教えられました。何年も後に息子のイブラーヒームが亡くなったとき、かれは涙を流して言われた。「**目は涙を流し、心は悲しむ。しかしわたしたちは、わたしたちの主が喜ばれること以外は口にしない**」（『サヒーフ・ブハーリー』1303）。

許されること	禁じられること
泣くこと、悲しむこと	嘆き叫ぶこと、泣きわめくこと
亡くなった人の善行を思い出すこと	定めを責める言葉
その人のために祈り、施しをすること	悲しみのあまり自分や服を傷つけること

教訓：悲しみは人間の本性であり、アッラーの使徒 ﷺ も悲しまれました。しかし悲しみは、かれが努力を続けることを**止めはしませんでした**。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

サウダ・ビント・ザムア

スィーラの注：ハディージャの後の妻

スィーラ書とウィキペディアによれば、ハディージャの逝去の後、アッラーの使徒 ﷺ はマッカで**サウダ・ビント・ザムア** رضى الله عنها と結婚されました。かの女は未亡人でした。夫の**アッ＝サクラーン・ブン・アムル**はかの女と共にハバシャへ移住し、その後亡くなっていました。

サウダは早くにイスラームに入った人々の一人で、移住の苦労を耐え抜いていました。この結婚は、移住者の未亡人に**保護**を与え、母を失ったかれの子どもたちに**家を守る人**をもたらしました。

参照：

ウィキペディア「Sawda bint Zam'a」。https://en.wikipedia.org/wiki/Sawda_bint_Zam'a

この結婚の英知

アッラーの使徒 ﷺ とサウダの結婚は、かれの結婚に**人道的・宣教的な目的**があったことを示しています。殉教したり亡くなったりした教友の未亡人を守り、家族を支えることです。

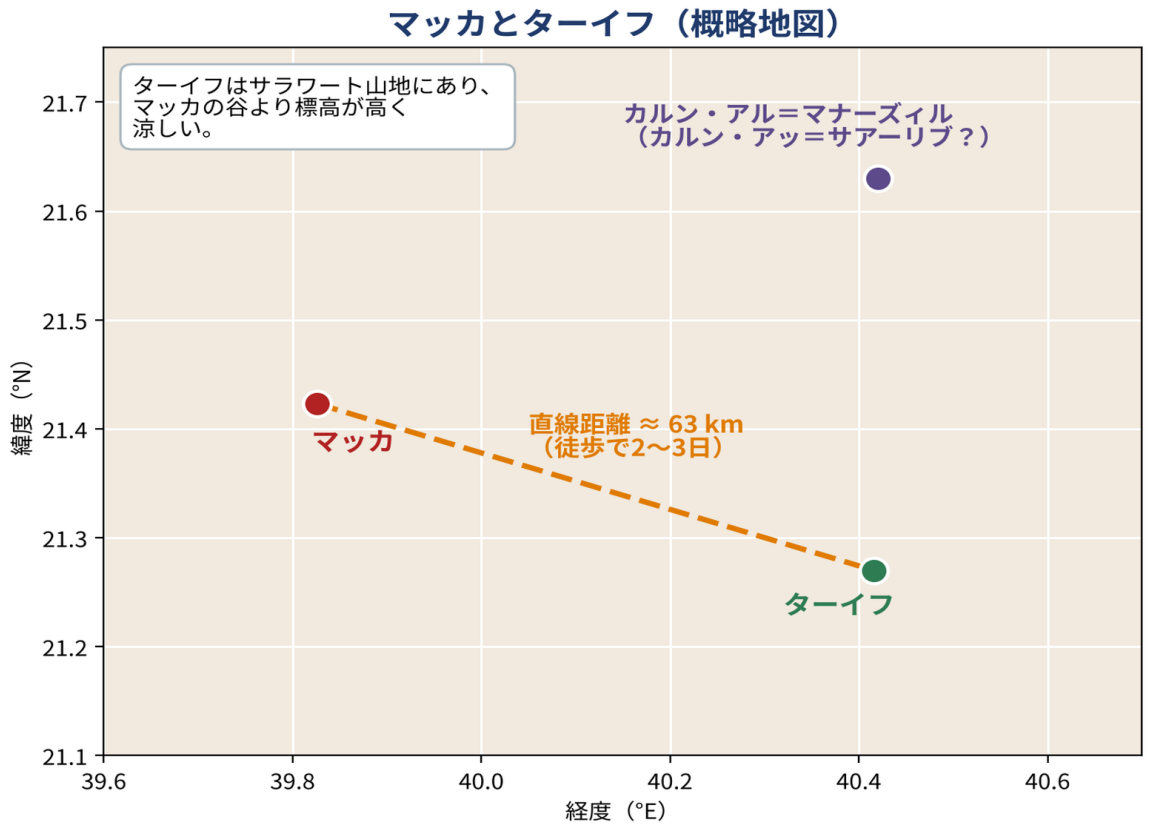
真正なハディースはサウダを称えています。アーイシャ رضى الله عنها は、サウダほどその人柄に似たいと思った女性はいないと言い、サウダは自分の順番をアーイシャに譲ったことがありました（『サヒーフ・ムスリム』1463）。

教訓：イスラームは**未亡人と孤児**を尊びます。かれらの世話をすることはアッラーの使徒 ﷺ のスンナです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

ターイフへ

ターイフはヒジャーズで2番目に重要な町で、**サキーフ族**が住んでいました。山地にあり、マッカより涼しく肥沃で、果樹園で知られていました。アッラーの使徒 ﷺ は、その住民がイスラームを受け入れ、かれを守ってくれることを望まれました。



座標は概算。カルン・アッ＝サアーリブを一部の学者はカルン・アル＝マナーズィルと同定する。出典：ウィキペディア「Taif」。

図 4：マッカとターイフの位置（概略地図）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

スィーラの注：ザイドと共に歩んだ旅

ウィキペディアによれば、ターイフへの旅は**西暦 619 年**に行われ、その距離はマッカから**2〜3 日の行程**でした。スィーラ書（イブン・サアド）は、かれが**ザイド・ブン・ハーリサ**を伴い、徒歩で行かれたと述べています。

アル＝ムバーラクフーリーは『アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム』の中で、かれが**約 10 日間**ターイフに滞在し、指導者を一人また一人と訪ねられたと述べています。

参照：

ウィキペディア「Muhammad's visit to Ta'if」。https://en.wikipedia.org/wiki/Muhammad%27s_visit_to_Ta%27if

なぜターイフなのか

要因	説明
2 番目に重要な町	マッカに次いで、ターイフはヒジャーズの権力と経済の中心でした。
強い部族	サキーフ族は、かつてのハーシム家のように保護を与えることができました。
親族のつながり	スィーラ書は、かれがターイフ周辺の部族と乳兄弟や親族の関係にあったと述べています。
クライシュ族の競争相手	サキーフ族は交易と影響力においてクライシュ族と競い合っていました。

かれがマッカだけに**望みを絶つことなく**、**別の道を探された**ことに注目してください。これは行き詰まりに直面したときの模範です。立ち止まらず、別の扉を探すのです。

教訓：宣教には**主体性と勇気**が必要です。50 歳近いかれが、使命を伝えるために徒歩で山々を越えて行かれたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

サキーフ族の拒絶

スィーラの注：サキーフ族の三人の指導者

ウィキペディアによれば、かれは**サキーフ族**の指導者である三兄弟、**アブド・ヤーリール**、**マスウード**、**ハビーブ**を訪ねられました。かれらは無礼に拒みました。真正なハディースは、かれが自らを申し出た相手として**イブン・アブド・ヤーリール・ブン・アブド・クラール**の名を挙げています（『サヒーフ・ブハーリー』3231）。

ターイフの人々はさらに、愚かな者たちや奴隷たちをけしかけて**かれを追い立て、石を投げつけ**させ、かれの足と手は傷ついて血を流しました。スィーラ書は、ザイドがかれを守ろうとして頭に傷を負ったと伝えています。

参照：

ウィキペディア「Muhammad's visit to Ta'if」。https://en.wikipedia.org/wiki/Muhammad%27s_visit_to_Ta%27if

最もつらい拒絶

マッカでは、反対されながらも、かれは家柄ゆえにまだ敬意を払われていました。ターイフでは、かれは守る者のいない**よそ者**でした。サキーフ族の拒絶は言葉だけでなく、人々の前での**侮辱と暴力**によるものでした。

かれはまた、クライシュ族がさらに大胆にならないよう、この会見を**秘密にしておく**よう頼まれましたが、かれらは断りました（スィーラ書）。希望をもって始まった旅は、傷を負って終わったのです。

10 年後のターイフ

スィーラ書によれば、**ヒジュラ暦 9 年**、サキーフ族の使節団がマディーナに来てイスラームに入りました。かつてかれに石を投げた町が、ついには忠誠の誓いを立てるために代表を送ったのです。アッラーの使徒 ﷺ の逝去後、多くの部族が背教したときにも、歴史書はサキーフ族がイスラームに**揺るがずにとどまった**と伝えています。

教訓：**表面上の失敗**は努力が無駄だったことを意味しません。これから見るように、アッラーはその実りを別の時のためにとっておかれました。ターイフは約 10 年後についにイスラームに入ったのです。

ウトバとシャイバの果樹園で

スィーラの注：アッダースとひと房のぶどう

ウィキペディアとスィーラ書によれば、かれは**ウトバとシャイバ・ブン・ラビーアの果樹園**に身を寄せられました。二人はかれの姿を見て哀れに思ったクライシュ族の有力者で、キリスト教徒の奴隷**アッダース――ニーナワー**出身――に、ひと房のぶどうをかれに持って行かせました。

かれは「**ビスミッラー（アッラーの御名において）**」と言って食べ始められました。アッダースは、この土地の人々がその言葉を言わないので驚きました。アッダースがニーナワーの出身だと知ると、かれは、**預言者ユーヌス** عَلَيْهِ السَّلَامُ は自分の兄弟であり、自分と同じ預言者であると言われました。アッダースはかれの頭と手と足に口づけしました。

参照：

ウィキペディア「Muhammad's visit to Ta'if」。https://en.wikipedia.org/wiki/Muhammad%27s_visit_to_Ta%27if

アッダースの話は、イブン・イスハークが途切れのない伝承経路なしに伝えたもので、**二大サヒーフ集にはありません。**しかしその意味は、よく知られたかれの人柄と一致しています。

闇の中の光

最も暗い日に、アッラーはかれを敬う**異国の一人の奴隷**を遣わされました。血を流しながらも、かれはなお**宣教され**、アッダースを過去の預言者たちに結びつけられたのです。善を伝えるのに難しすぎる時などありません。

教訓：**預言者たちの使命の一体性**は、啓典の民への宣教の架け橋です。ユーヌス、ムーサー、イーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ は、唯一神の使命において預言者ムハンマド ﷺ の兄弟なのです。

ターイフでの祈り：その評価

スィーラの注：非常に有名な祈り

かれがその果樹園で唱えたとされる祈りを、多くの人が知っています。「**アッラーよ、わたしはあなたに、わたしの力の弱さ、わたしの手立ての乏しさ、人々の前でのわたしの卑しさを訴えます……**」から「**……あなたがわたしにお怒りでない限り、わたしは気にかけません。**」

この祈りは、イブン・イスハークが伝承経路なしに伝え、またアッ＝タバラーニーが伝えていますが、その伝承経路には素性の知れない伝承者がいるため、アル＝アルバーニーなどのハディース学者から**弱い（ダイーフ）**と評価されています。

どう向き合うか

項目	立場
確かにかれの言葉であるとすること	できません。伝承経路が弱いためです。
その意味	良いものであり、クルアーンとスンナに合致しています。アッラーにだけ訴えるということです。
似た言葉で祈ること	一般的な祈りとしては許されます。ただし預言者 ﷺ の言葉だと主張しないこと。
真正な祈り	クルアーンと真正なハディースの祈りを優先しましょう。

確かで真正なのは、かれ自身がその日のことをアーイシャに語られた内容です。次の章で見ます。その真正な伝承だけで、かれの悲しみの深さと慈悲の広さは十分に示されています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

最もつらい日

何年も後、かれが負傷しハムザが殉教したウフドの戦いの後、アーイシャ رضى الله عنها は、ウフドよりもつらい日があったかどうかを尋ねました。かれの答えは**ターイフ**を指していました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3231 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ يُوسُفَ، أَخْبَرَنَا ابْنُ وَهْبٍ، قَالَ أَخْبَرَنِي يُونُسُ، عَنِ ابْنِ شِهَابٍ، قَالَ حَدَّثَنِي عُرْوَةُ، أَنَّ عَائِشَةَ ـ رضى الله عنها ـ زَوْجَ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم حَدَّثَتْهُ أَنَّهَا قَالَتْ لِلنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم هَلْ أَتَى عَلَيْكَ يَوْمٌ كَانَ أَشَدَّ مِنْ يَوْمِ أُحُدٍ قَالَ «لَقَدْ لَقِيتُ مِنْ قَوْمِكِ مَا لَقِيتُ، وَكَانَ أَشَدُّ مَا لَقِيتُ مِنْهُمْ يَوْمَ الْعَقَبَةِ، إِذْ عَرَضْتُ نَفْسِي عَلَى ابْنِ عَبْدِ يَالِيلَ بْنِ عَبْدِ كُلاَلٍ، فَلَمْ يُجِبْنِي إِلَى مَا أَرَدْتُ، فَانْطَلَقْتُ وَأَنَا مَهْمُومٌ عَلَى وَجْهِي، فَلَمْ أَسْتَفِقْ إِلاَّ وَأَنَا بِقَرْنِ الثَّعَالِبِ، فَرَفَعْتُ رَأْسِي، فَإِذَا أَنَا بِسَحَابَةٍ قَدْ أَظَلَّتْنِي، فَنَظَرْتُ فَإِذَا فِيهَا جِبْرِيلُ فَنَادَانِي فَقَالَ إِنَّ اللَّهَ قَدْ سَمِعَ قَوْلَ قَوْمِكَ لَكَ وَمَا رَدُّوا عَلَيْكَ، وَقَدْ بَعَثَ إِلَيْكَ مَلَكَ الْجِبَالِ لِتَأْمُرَهُ بِمَا شِئْتَ فِيهِمْ، فَنَادَانِي مَلَكُ الْجِبَالِ، فَسَلَّمَ عَلَىَّ ثُمَّ قَالَ يَا مُحَمَّدُ، فَقَالَ ذَلِكَ فِيمَا شِئْتَ، إِنْ شِئْتَ أَنْ أُطْبِقَ عَلَيْهِمِ الأَخْشَبَيْنِ، فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم بَلْ أَرْجُو أَنْ يُخْرِجَ اللَّهُ مِنْ أَصْلاَبِهِمْ مَنْ يَعْبُدُ اللَّهَ وَحْدَهُ لاَ يُشْرِكُ بِهِ شَيْئًا».

訳：

預言者 رضى الله عنها の妻アーイシャ ﷺ によれば、かの女は預言者 ﷺ に尋ねた。「ウフド（の戦い）の日よりもつらい日を経験されたことはありますか。」かれは言われた。**「わたしはあなたの民から受けたものを受けた。最もつらかったのはアカバの日だった。わたしはイブン・アブド・ヤーリール・ブン・アブド・クラールに自らを申し出たが、かれはわたしの望むことに応じなかった。わたしはひどく悲しんで、行く先もわからずに歩き去り、気がつくとカルン・アッ＝サアーリブにいた。頭を上げると、雲がわたしを覆っていた。見ると、その中にジブリールがいた。かれはわたしに呼びかけて言**

った。『アッラーは、あなたの民があなたに言ったことと、かれらがあなたに返した答えを聞かれた。アッラーは山々の天使をあなたのもとに遣わされた。かれらについて、あなたの望むことを何でも命じなさい。』すると山々の天使がわたしに呼びかけ、わたしに挨拶して言った。『ムハンマドよ、（すべては）あなたの望みしだいです。もしお望みなら、二つのアフシャバーン山をかれらの上に合わせてしまいましょう。』預言者ﷺは言われた。『いや、わたしは、アッラーがかれらの子孫の中から、アッラーだけを崇め、何ものもかれに並べない者を生み出してくださることを望む。』」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：アブドッラー・ブン・ユースフ ← イブン・ワフブ ← ユーヌス・ブン・ヤズィード ← イブン・シハーブ・アッ＝ズフリー ← ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル ← アーイシャ رضي الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』創造の始まりの書、ハディース第 3231 番。ムスリム（第 1795 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3231

このハディースの教訓

想像してみてください。**石を投げられ、辱められたばかりの人**が、その町の住民全体を滅ぼす力を差し出されたのです。それでもかれは**希望**を選ばれました。かれらの子孫からアッラーを崇める者が生まれますように、と。

差し出された選択肢	かれの選択
報復すること	赦すこと
今の世代を滅ぼすこと	未来の世代に希望をかけること
力を見せること	慈悲を見せること

かれの望みはかなえられました。ターイフの人々は**ヒジュラ暦9年**にイスラームに入り、サキーフ族からはイスラームの人物たちが生まれました。ハディースに出てくるアフシャバーンとは、マッカを取り囲む**二つの大きな山**のことです。

「わたしの民を赦してください」

イブン・マスウード رضي الله عنه は言った。アッラーの使徒 ﷺ が、民に打たれて血を流したある預言者のことを語っておられた様子が、今も目に浮かぶようだ。その預言者は顔の血をぬぐいながら祈った。**「アッラーよ、わたしの民を赦してください。かれらは知らないのです」**（『サヒーフ・ブハーリー』3477）。

学者たちは、この預言者たちの人柄はアッラーの使徒 ﷺ 自身の人柄でもあると説明しています。ターイフの出来事はそれをはっきりと示しています。かれは滅ぼすという申し出を退け、希望を選ばれたのです。

教訓：これこそが**「万有への慈悲」**（預言者章 21:107）の意味です。宣教者は人々の滅亡を祈るのではなく、その導きを祈るのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

クルアーンを聞いたジン

スィーラ書によれば、ターイフからの帰り道、かれは**ナフラの谷**にとどまり、夜の礼拝をされました。ジンの一団がかれのクルアーンの読誦を聞きました。アッラーはジンがクルアーンを聞いた出来事をこの節に記録されています。

砂丘章 46:29〜30

وَإِذْ صَرَفْنَآ إِلَيْكَ نَفَرًا مِّنَ ٱلْجِنِّ يَسْتَمِعُونَ ٱلْقُرْءَانَ فَلَمَّا حَضَرُوهُ قَالُوٓا۟ أَنصِتُوا۟ ۖ فَلَمَّا قُضِىَ وَلَّوْا۟ إِلَىٰ قَوْمِهِم مُّنذِرِينَ ﴿٢٩﴾

われが、クルアーンを聞きたいというジンの仲間をあなたに差し向けた時のことを思い起しなさい。かれらがその場に臨むと互いに、『謹んで聴きなさい。』と言った。やがてそれが終ると、警告のためにその民の所に帰って行き警告した。

قَالُوا۟ يَٰقَوْمَنَآ إِنَّا سَمِعْنَا كِتَٰبًا أُنزِلَ مِنۢ بَعْدِ مُوسَىٰ مُصَدِّقًا لِّمَا بَيْنَ يَدَيْهِ يَهْدِىٓ إِلَى ٱلْحَقِّ وَإِلَىٰ طَرِيقٍ مُّسْتَقِيمٍ ﴿٣٠﴾

かれらは言った。『わたしの人々よ、わたしたちはムーサーの後に下された啓典を確かに聞きました。（それは）それ以前に下されたものを確証し、真理と正しい道に導くものです。

訳：三田了一 — quran.com/46:29-30

46:29〜30 の節の解説

イブン・カスィールは、この出来事がかれのターイフからの帰り道に起きたとするイブン・イスハークの伝承を引用しています。またかれは、イブン・アッバース رضى الله عنهما からの真正な伝承として、かれが教友たちとウカーズの市場へ向かう途中、ナフラで夜明けの礼拝をしていたときにジンがその読誦を聞いたことも挙げています（『サヒーフ・ブハーリー』773）。この出来事の**正確な時期**については意見が分かれています。

時期がいつであれ、この節は非常に心を慰めるメッセージを伝えています。ターイフの人々が拒んだとき、**別の被造物**が聞き、信じ、警告者として自分の民のもとへ帰って行ったのです。かれの使命は**人間とジン**のためのものです。

ジンとは何か

項目	根拠
燃える炎から創られた	慈悲あまねく御方章 55:15
アッラーを崇めるために創られた	撒き散らすもの章 51:56
信じる者もいれば、不信仰の者もいる	ジン章 72:11、14
クルアーンを聞き、自分の民に宣教する	砂丘章 46:29〜30、ジン章 72:1〜2
目に見えない世界のことを知らない	サバア章 34:14

ジンを信じることは、目に見えないものへの信仰の一部です。しかしイスラームは迷信と、ジンに助けを求める行いを退けます。助けはアッラーからのみ来るからです（ジン章 72:6）。

教訓：宣教の成功を**一部の人々の反応**で測ってはいけません。アッラーは御望みの心を開かれます。ときには思いがけない方向から。

ムトイムの保護のもとでの帰還

スィーラの注：保護を得てマッカに入る

アブー・ターリブの保護がなければ、かれは安全にマッカに入ることができませんでした。ウィキペディアによれば、かれはザイド・ブン・ハーリサを送って保護を求め、ナウファル家の長**アル＝ムトイム・ブン・アディー**がこれに応じました。アル＝ムトイムは武装し、自分の息子たちや甥たちと共にかれを護衛してマッカに入りました。

アル＝ムトイムは、ボイコットを破棄した五人の一人でもありました。かれは西暦 623 年、**まだイスラームに入らないまま**亡くなりました。

参照：

ウィキペディア「Muṭʿim ibn ʿAdi」。
https://en.wikipedia.org/wiki/Mu%E1%B9%AD%CA%BDim_ibn_%CA%BDAdi

ジワールの制度：アラブ社会の保護

アラブ社会では、守る者のいない人は有力者に**ジワール**（保護）を求めることができました。保護されている人を傷つける者は、その保護者自身を傷つけたとみなされました。アブー・バクルもイブン・アッ＝ドゥグンナのジワールのもとで暮らしたことがあります（『サヒーフ・ブハーリー』3905）。

アッラーの使徒 ﷺ は、信条を犠牲にすることなく、この既存の制度を賢明に用いられました。イスラームはのちにこの制度の良い価値を残しました。アッラーの御言葉を聞くために保護を求める多神教徒は保護され、安全な場所へ送り届けられなければなりません（悔悟章 9:6）。

アッラーの使徒 ﷺ は、アル＝ムトイムの恩を決して忘れられませんでした。バドルの戦いの後、かれはこの言葉でかれのことに触れられました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3139 番

حَدَّثَنَا إِسْحَاقُ بْنُ مَنْصُورٍ، أَخْبَرَنَا عَبْدُ الرَّزَّاقِ، أَخْبَرَنَا مَعْمَرٌ، عَنِ الزُّهْرِيِّ، عَنْ مُحَمَّدِ بْنِ جُبَيْرٍ، عَنْ أَبِيهِ ـ رضى الله عنه ـ أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم قَالَ فِي أُسَارَى بَدْرٍ «لَوْ كَانَ الْمُطْعِمُ بْنُ عَدِيٍّ حَيًّا، ثُمَّ كَلَّمَنِي فِي هَؤُلاَءِ النَّتْنَى، لَتَرَكْتُهُمْ لَهُ».

訳：

ジュバイル・ブン・ムトイム رضى الله عنه によれば、預言者 ﷺ はバドルの捕虜について言われた。「**もしアル＝ムトイム・ブン・アディーが生きていて、これらの卑しい者たちのことでわたしに口添えしたなら、わたしはかれのためにかれらを解放したであろう。**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：イスハーク・ブン・マンスール ← アブドッラッザーク ← マアマル ← アッ＝ズフリー ← ムハンマド・ブン・ジュバイル ← その父ジュバイル・ブン・ムトイム رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』五分の一の義務の書、ハディース第 3139 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3139

このハディースの教訓

このハディースは**恩に報いる人柄**を示しています。アル＝ムトイムは不信仰のまま亡くなりましたが、アッラーの使徒 ﷺ はかれの功績を公然と認め、そのために戦争の捕虜を解放してもよいとまで言われたのです。

このハディースの伝承者**ジュバイル・ブン・ムトイム**はアル＝ムトイム自身の息子で、のちにイスラームに入りました。父の善行が、息子が伝える話の一部となったのです。

困難と共に安楽はある

ボイコット、悲しみ、拒絶の年月は、マッカ時代のスィーラで最も暗い時期でした。しかしマッカ期のクルアーンは、二度繰り返される一つの約束を教えていました。

アッラーは仰せられます。「**本当に困難と共に安楽はある**」。この節は二度繰り返されます（94:5〜6）。イブン・カスィールは、「**困難**」**は定冠詞つきの特定の形**で、「**安楽**」**は不定の一般的な形**で述べられていることから、一つの困難が二つの安楽に打ち勝つことはないという学者の説明を引用しています。『タフスィール・イブン・カスィール』94:5。

困難	それに続く安楽
三年間のボイコット	良心ある五人によって破棄された
アブー・ターリブとハディージャの喪失	夜の旅と昇天、そしてヤスリブからの新たな支援（第 6 巻）
ターイフでの拒絶と石	ジンがクルアーンを聞き、ターイフもついにイスラームに入った
マッカでの保護の喪失	アル＝ムトイム・ブン・アディーの保護

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

安楽はいつもすぐに来るとは限らず、私たちが予想する形で来るとも限りません。しかしアッラーの約束は**確かなもの**です。この年月のスィーラは、その節の生きた証しなのです。

苦難のときの祈り

イブン・アッバース رضى الله عنهما によれば、苦難に見舞われたとき、アッラーの使徒 ﷺ はこう祈られました。「**ラー・イラーハ・イッラッラーフ・アル＝アズィーム・アル＝ハリーム、ラー・イラーハ・イッラッラーフ・ラッブ・アル＝アルシュ・アル＝アズィーム、ラー・イラーハ・イッラッラーフ・ラッブ・アッ＝サマーワーティ・ワ・ラッブ・アル＝アルディ・ワ・ラッブ・アル＝アルシュ・アル＝カリーム**」――偉大にして寛容なるアッラーのほかに神はない。偉大な玉座の主アッラーのほかに神はない。天の主、地の主、尊い玉座の主アッラーのほかに神はない（『サヒーフ・ブハーリー』6346）。

この真正な祈りは、伝承経路の弱いターイフの祈りとは違い、試練に遭うすべてのムスリムが確信をもって唱えることができます。

かれ以前の預言者たちも試練を受けた

マッカ期のクルアーンは、過去の預言者たちの試練を数多く語り、まるでアッラーの使徒 ﷺ を慰めるかのようです。「あなた以前の使徒たちも嘘つきとされたが、かれらは耐え忍んだ」（家畜章 6:34）。

預言者	試練と安楽
ヌーフ عَلَيْهِ السَّلَامُ	長いあいだ民に嘘つきとされたが、方舟によって救われた（フード章 11:40〜48）。
イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ	火の中に投げ込まれたが、火は涼しく安全なものとなった（預言者章 21:68〜69）。
ユースフ عَلَيْهِ السَّلَامُ	井戸に投げ込まれ投獄されたが、ついにはエジプトの統治者となった（ユースフ章 12:56）。
ムーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ	海までフィルアウンに追われたが、海が割れた（詩人たち章 26:61〜63）。
ユーヌス عَلَيْهِ السَّلَامُ	魚に呑まれたが、かれの讃美によって救われた（預言者章 21:87〜88）。
アイユーブ عَلَيْهِ السَّلَامُ	病と喪失で試されたが、回復し、失ったものの代わりを与えられた（預言者章 21:83〜84）。

教訓：喪失、拒絶、苦境――個人的なあらゆる試練の中で、**困難には安楽が伴っている**ことを思い出しましょう。単に後から来るのではなく、共にあるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

真正な伝承と有名な話のあいだ

ボイコット、悲しみの年、ターイフについては多くの話が社会に広まっています。次の表は、真正なもの、スィーラ書によるもの、弱いものを区別しています。

話とその評価

有名な話	評価
クライシュ族はハーシム家のボイコットを誓った。婚姻も売り買いもしない。	真正（『サヒーフ・ブハーリー』1590）。
ボイコットはシッブ・アビー・ターリブで約三年間続いた。	スィーラ書。一般に受け入れられている。
盟約の文書がシロアリに食われた。	スィーラ書のムルサルの伝承。
アッラーの使徒 ﷺ はアブー・ターリブにラー・イラーハ・イッラッラーと言うよう求めた。	真正（『サヒーフ・ブハーリー』3884）。
28:56 の節はアブー・ターリブについて下った。	真正（『サヒーフ・ブハーリー』3884）。
ハディージャはヒジュラの 3 年前に亡くなった。	真正（『サヒーフ・ブハーリー』3896）。
アッダースとぶどうの話。	途切れのない伝承経路のないイブン・イスハークの伝承。
「アッラーよ、わたしはあなたに、わたしの力の弱さを訴えます……」という祈り。	アル＝アルバーニーによれば弱い（ダイーフ）。
山々の天使が二つの山を合わせようと申し出た。	真正（『サヒーフ・ブハーリー』3231）。
ターイフからの帰りにナフラでジンがクルアーンを聞いた。	ナフラでのジンの出来事は真正（『サヒーフ・ブハーリー』773）。ターイフとの結びつきはスィーラ書による。
アル＝ムトイム・ブン・アディーがかれを保護した。	スィーラ書。その功績は『サヒーフ・ブハーリー』3139 で認められている。

省察

この年月についての真正な伝承だけで、**忍耐と慈悲**に満ちたアッラーの使徒 ﷺ の姿は十分に描き出されています。かれのために涙を流し、かれを愛するのに、弱い伝承は必要ありません。

このシリーズの重要な場所

本書の出来事は、互いにそれほど離れていないいくつかの場所で起こりました。カアバのそばの狭い谷、マッカのはずれの墓地、そしてターイフへの山道です。この章ではそれらの場所を一つの表にまとめ、最もつらい年月のアッラーの使徒 ﷺ の歩みを読者が思い描けるようにしています。

場所の表

表の距離は**おおよその値**です。直線距離は現代の座標から計算し、道路距離は記載した資料によります。かれの時代に通った道は、はるかに険しく曲がりくねっていました。

場所	このシリーズとの関わり	場所／今日の様子
シッブ・アビー・ターリブ	ハーシム家とムッタリブ家が約三年間包囲された谷（スィーラ書）。	カアバの東、サファーとマルワの裏手、アブー・クバイス山とハンダマ山のあいだ。その大部分は現在マスジド・アル＝ハラームの区域に含まれている。
ハイフ・バニー・キナーナ（ムハッサブ／アブタフ）	クライシュ族がハーシム家のボイコットを誓った場所（『サヒーフ・ブハーリー』1590）。	マッカとミナーのあいだの谷。
ハジューン（ジャンナト・アル＝ムアッラー）	スィーラ書によれば、ハディージャ رضى الله عنها が葬られた墓地。	マスジド・アル＝ハラームから遠くなく、マスジド・アル＝ジンの近く。
ターイフ	かれがザイド・ブン・ハーリサと共に訪れたサキーフ族の町。	マッカの南東、直線で約63km。現在の山岳道路で約87km。
ナフラ	かれが礼拝し、ジンがクルアーンを聞いた谷（スィーラ書、『サヒーフ・ブハーリー』773）。	マッカとターイフのあいだの道沿い（正確な位置は推定）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

場所	このシリーズとの関わり	場所／今日の様子
カルン・アッ＝サアーリブ	ターイフを悲しみのうちに去ったかれが「我に返った」場所（『サヒーフ・ブハーリー』3231）。	ヤークート・アル＝ハマウィーによれば、ナジュドの人々のミーカートであるカルン・アル＝マナーズィルの別名。マッカの北東約80km。

資料：WikiShia「Shi'b Abi Talib」、ウィキペディア「Taif」、Saudipedia「Qarn al-Manazil」、Medieval Middle East「al-Qarn」、Madain Project「Jannat ul-Mu'alla」。

今日のシッブ・アビー・ターリブ

三年間のボイコットを見届けた谷は、カアバのすぐ近く、サファーとマルワの丘の向こう、アブー・クバイス山のふもとにあります。この谷はシッブ・バニー・ハーシムとしても知られています。WikiShia によれば、この地域の家々や史跡の大部分は拡張事業によってマスジド・アル＝ハラームに取り込まれ、**スーク・アッ＝ライル**という名で知られるわずかな部分が残るだけです。

想像してみてください。今日の巡礼者たちは、ハーシム家の子どもたちがかつて飢えて泣いた場所からわずか数百メートルのところでサアイを行っているのです。その近さは、ボイコットが人里離れた場所ではなく、見ていながら黙っていた社会のただ中で起きたことを思い起こさせます。

ターイフへの道

ターイフはサラワート山脈の上にあり、マッカよりずっと高いところにあります。今日では車で曲がりくねった道を1時間あまりで行けます。かれの時代には、岩だらけの谷を上り下りしながら、徒歩で2〜3日かけて進む道のりでした。

帰り道について、真正なハディースは、かれがひどく悲しんで歩き、**カルン・アッ＝サアーリブ**に着くまで我に返らなかったと述べています（『サヒーフ・ブハーリー』3231）。ヤークート・アル＝ハマウィーの『ムウジャム・アル＝ブルダーン』

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

によれば、カルン・アッ＝サアーリブは**カルン・アル＝マナーズィル**の別名です。そこはのちにかれがナジュドの人々のミーカートと定められた場所です。現在のアッ＝サイル・アル＝カビールのミーカートのモスクは、マッカの北東約 80km、ターイフの北約 35km にあります。

資料：Saudipedia「Qarn al-Manazil」、Medieval Middle East「al-Qarn」。

教訓

かつてアッラーの使徒 ﷺ の悲しみを見届けた場所は、今では何百万ものムスリムがイフラームを着て崇拝する場所となっています。忍耐をもって耐えた苦難は消えてしまうのではなく、アッラーはそれを、終末まで語り継がれる歴史の一部とされるのです。

ターイフとサキーフ族

なぜターイフだったのか。アッラーの使徒 ﷺ の希望と、かれが受けた拒絶の痛みを理解するには、この町とその住民を知る必要があります。

山の上の町

ウィキペディアによれば、ターイフは海抜約 **1,879 メートル**にあります。その気候はアラビア半島のほかの多くの町よりも穏やかで、7 月の平均最高気温は約 35.6℃です。この地域は昔から**ぶどう、ざくろ、いちじく、はちみつ**などの農産物で知られ、今日では香水用のバラの栽培から「**バラの町**」と呼ばれています。

「作物のない」谷（イブラーヒーム章 14:37）に住むマッカの人々にとって、ターイフは山の上の庭園でした。クライシュ族の多くの有力者がそこに果樹園を持っていました。ウトバとシャイバ・ブン・ラビーアもその一人で、追われたかれが身を休めたのはかれらの果樹園でした（スィーラ書）。

資料：ウィキペディア「Taif」。

サキーフ族と町の城壁

ターイフは西暦 6 世紀から**サキーフ族**に支配され、その子孫は今もこの地域に住んでいます。ウィキペディアによれば、町にはサキーフ族が築いた城壁があり、町を取り囲むその城壁が「ターイフ」（取り囲むもの）という名と結びつけられています。この堅固な地の利が、サキーフ族に自分たちの強さを確信させ、のちにヒジュラ暦 8 年のターイフ包囲を困難にしました（第 22 巻で語ります）。

アッラート：ターイフの偶像

ターイフは「ターイフの女主人」と呼ばれた偶像**アッラート**の崇拝の中心でした。クルアーンはアッラートをアル＝ウッザー、マナートと共に挙げ、それらの偶像に対する多神教徒の信仰を退けています（星章 53:19〜23）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

サキーフ族にとって、唯一神信仰を受け入れることは、町の誇りであり収入源でもあった偶像を捨てることを意味しました。これを知ると、かれらの拒絶がなぜあれほど激しかったのかがわかります。ウィキペディアとスィーラ書によれば、アッラートの偶像は、サキーフ族がヒジュラ暦9年にイスラームに入った後に壊されました。

資料：ウィキペディア「Taif」。

スィーラの注：拒絶から受け入れへ

ターイフはスィーラに三度登場します。預言者として遣わされて10年目、かれがザイドとただ二人で訪れて追い出されたとき。ヒジュラ暦 8 年（西暦 630 年）、フナインの戦いの後にイスラーム軍がターイフを包囲したものの陥落させなかったとき。そしてヒジュラ暦 9 年、サキーフ族の使節団が自らイスラームに入るためにマディーナへ来たときです。

歴史書によれば、アッラーの使徒 ﷺ の逝去後、多くのアラブの部族が背教したときにも、サキーフ族はイスラームに揺るがずにとどまりました。最も激しく拒んだ町が、ついには最も固く信仰を守る町の一つとなったのです。

教訓

サキーフ族の拒絶は、理解できなかったからではなく、利益と誇りに縛られていたからでした。宣教者は相手の背景を理解する必要があります。そして忍耐し続けるのです。最もかたくなな心でさえ、アッラーのお許しによって変わりうるのですから。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

歴史の足跡：歴史記録に見るターイフとマッカ

本書で語った年月の物理的な痕跡は、多くは残っていません。しかしターイフとマッカの地域には、確かな歴史記録がいくつか残されています。この章ではそのうちの二つを取り上げ、伝承だけに基づくことははっきりと示します。

ターイフのムアーウィヤのダムの碑文（ヒジュラ暦 58 年）

ターイフから約 ***9.6km*** のところに、**ムアーウィヤのダム**（サイサド・ダムとも呼ばれる）として知られる古いダムがあります。山のふもと、ダムの壁面の右側にある大きな花崗岩の上に、点つきのクーフィー体による 6 行の碑文が刻まれており、大きさは約 130×70cm です。

碑文は、このダムが**信徒たちの長ムアーウィヤ**のものであり、アッラーのお許しによって**ヒジュラ暦 58 年（西暦 678 年）**に築かれたことを述べ、かれのための赦しと力を求める祈りで結ばれています。これは 1948 年に G. C. マイルズによって『Journal of Near Eastern Studies』に発表されました。Saudipedia によれば、この碑文は研究者たちから、イスラーム時代の建造物にある**点つき文字による最古の年代入りアラビア語碑文**とみなされており、アラビア文字の発展史における重要な証拠です。

資料：Saudipedia「ムアーウィヤ・ブン・アビー・スフヤーンのダムの碑文」、Islamic Awareness「Inscription On The Dam Built By Caliph Mu‘awiya, 58 AH」。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

歴史の注：このシリーズとの関わりは？

この碑文は、アッラーの使徒 ***enam puluh tahun*** がターイフから追われた約 60 年後に作られました。本書の出来事の直接的な証拠では**なく**、私たちもそう主張するものではありません。

しかしこれは、そこで起こった大きな変化を示しています。かつてかれに石を投げた町が、二世代のうちに、民のために公共施設を築くイスラーム国家の一部となったのです。そして、かつてはまれにしか使われなかったアラビア文字が、ムスリムの統治者の名のもとに整然と刻まれるようになりました。

ハジューン：ジャンナト・アル＝ムアッラー墓地

ハディージャ رضى الله عنها は、現在**ジャンナト・アル＝ムアッラー**として知られるマッカの古い墓地ハジューンに葬られました。Madain Project によれば、伝承ではそこにアブー・ターリブと、かれの祖父アブドルムッタリブも葬られているとされます。この墓地の墓の上の建物は 1925 年に取り壊され、今日その区域は長く白い壁に囲まれ、墓は名前のない石で示されているだけです。

注：伝承と伝承記録のあいだ

スィーラ書は、ハディージャがハジューンに葬られたと述べています。しかし、名前の印がないため、ジャンナト・アル＝ムアッラーにあるかの女の墓や他の墓の**正確な位置**は、今日確かめることができません。特定の墓を定めるのは、地元の伝承に基づくだけです。

墓参りのスンナは、死を思い出し、葬られているムスリムのために祈るためのものです。真正なハディースはまた、かれが教訓を得るために母の墓を訪れたことを示しています（『サヒーフ・ムスリム』976）。これは第 1 巻でも述べました。

資料：Madain Project「Jannat ul-Mu‘alla」。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓

確かな歴史は、スィーラをより深く味わう助けになります。しかし私たちは、確実な証拠と、まだ確かめられない伝承とを正直に区別しなければなりません。最も大切なのは墓の位置を知ることではなく、そこに眠る人々の信仰と犠牲を受け継ぐことです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

このシリーズの人物

次の表は、本書の主な人物――守った人々、勇気をもって声を上げた人々、そして拒んだ人々――をまとめたものです。それぞれの情報の出典を示し、スィーラ書からの情報は「スィーラ書」と記しています。

家族と保護者たち

人物	本巻での役割	典拠
アブー・ターリブ・ブン・アブドルムッタリブ	かれのおじであり保護者。信仰告白の言葉を言わずに亡くなった。	『サヒーフ・ブハーリー』3884、3883
ハディージャ・ビント・フワイリド	ボイコットを共に耐えたかれの妻。ヒジュラの 3 年前に亡くなった。	『サヒーフ・ブハーリー』3896、3818
サウダ・ビント・ザムア	ハディージャの後にかれが結婚した移住者の未亡人。	スィーラ書
ザイド・ブン・ハーリサ	ターイフへかれに同行し、かれを守ろうとした。	スィーラ書
ハキーム・ブン・ヒザーム	おばハディージャのもとへひそかに食べ物を運んだ。マッカ征服の日にイスラームに入った。	スィーラ書
アブー・バクル・アッ＝スィッディーク	圧力を受けて移住のために出発したが、イブン・アッ＝ドゥグンナの保護のもとに戻った。	『サヒーフ・ブハーリー』3905

ボイコットを破棄した五人

人物	本巻での役割	典拠
ヒシャーム・ブン・アムル	ボイコットを破棄する申し合わせを始め、夜に食べ物を送った。	スィーラ書

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

人物	本巻での役割	典拠
ズハイル・ブン・アビー・ウマイヤ	クライシュ族の集会で立ち上がり、ボイコットに反対した。	スィーラ書
アル＝ムトイム・ブン・アディー	ボイコットの破棄に加わり、のちにターイフから戻ったかれを保護した。	スィーラ書、『サヒーフ・ブハーリー』3139
アブル・バフタリー・ブン・ヒシャーム	アブー・ジャフルからハキーム・ブン・ヒザームをかばい、ボイコットの破棄に加わった。	スィーラ書
ザムア・ブン・アル＝アスワド	ボイコットを破棄した五人の一人。	スィーラ書

反対者たち

人物	本巻での役割	典拠
アブー・ジャハル（アムル・ブン・ヒシャーム）	ボイコットを支持し、食べ物の援助を妨げ、その破棄に反対した。	スィーラ書
アブー・ラハブ	クライシュ族の側についたハーシム家ただ一人の人物。	スィーラ書
イブン・アブド・ヤーリール・ブン・アブド・クラール	かれの申し出を拒んだターイフの指導者。	『サヒーフ・ブハーリー』3231
マスウードとハビーブ（アブド・ヤーリールの兄弟）	同じく無礼に拒んだサキーフ族の指導者たち。	スィーラ書
ウトバとシャイバ・ブン・ラビーア	かれが身を休めた果樹園の持ち主。のちにバドルの戦いで討たれた。	スィーラ書

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓

このシリーズで私たちは、まだ信仰していなくても忠実な親族、勇気をもって正義を立てたよそ者、そして傲慢に拒んだ指導者たちに出会いました。人の価値は血縁や地位ではなく、真理と正義に対する態度によって測られるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

年表：スィーラと世界

次の表は、本書の出来事を同じ時代の世界の大きな出来事と並べたものです。西暦年はおおよその値で、いくつかの出来事の正確な年代については歴史家とスィーラ学者のあいだで意見が分かれています。

年（概算）	マッカとターイフで	周辺の世界で
預言者として遣わされて 7 年目のムハッラム月（西暦 617 年頃）	ハイフ・バニー・キナーナでボイコットの盟約。ハーシム家はシッブ・アビー・ターリブに移った（『サヒーフ・ブハーリー』1590、スィーラ書）。	ローマ・ペルシア戦争が続く。ペルシアはすでにシャームとエルサレムを支配していた（第 4 巻）。
西暦 618 年	ハーシム家はなお包囲されていた。	中国で唐王朝が建てられる。
西暦 618〜621 年	—	ペルシアがエジプトを征服。アレクサンドリアは西暦 619 年頃に陥落。
預言者として遣わされて 10 年目（西暦 619 年頃）	ボイコットが破棄される。アブー・ターリブとハディージャが亡くなる——ヒジュラの 3 年前（『サヒーフ・ブハーリー』3896、3884）。	—
ハディージャの後	サウダ・ビント・ザムアとの結婚（スィーラ書）。	—
10 年目のシャウワール月（西暦 619 年頃）	ターイフへの旅、ナフラのジン、ムトイムの保護のもとでの帰還（『サヒーフ・ブハーリー』3231、スィーラ書）。	—
西暦 622 年	マディーナへのヒジュラ（第 7 巻）。	皇帝ヘラクレイオスがペルシアへの反攻を開始。

資料：ウィキペディア「Byzantine–Sasanian War of 602–628」、ウィキペディア「Tang dynasty」、ウィキペディア「Sasanian conquest of Egypt」。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

スィーラの注：どちらが先に亡くなったか

真正なハディースは、ハディージャがヒジュラの 3 年前に亡くなったこと（『サヒーフ・ブハーリー』3896）と、アブー・ターリブがかれのまだマッカにいるあいだに亡くなったこと（『サヒーフ・ブハーリー』3884）を述べるだけです。スィーラ書は、二人が同じ年に亡くなったことでは一致していますが、どちらが先に亡くなったか、二人のあいだにどれだけの間隔があったかについては意見が分かれています。

ターイフへの旅の時期も同様です。イブン・サアドは、預言者として遣わされて 10 年目のシャウワール月としています。このような意見の違いは物語の本質に影響せず、真正な資料が確定していないことを私たちが確定する必要はありません。

アッラーの使徒 ﷺ が二人の主な支えを失い、ターイフから追われたとき、世界ではペルシアがローマの領土を次々と征服しており、遠い東では中国に新しい王朝が興ろうとしていました。血を流した足でターイフから歩いて帰るその人が、世界を照らす使命をもたらすとは、誰も思わなかったでしょう。

教訓

アッラーの使徒 ﷺ の個人的な悲しみは、世界が揺れ動いていたときに起こりました。歴史は、真の強さが帝国や軍隊ではなく、この世のすべての支えが失われたように見えるときの信仰の揺るぎなさによって測られることを教えています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

よくある質問

ボイコット、悲しみの年、ターイフへの旅についてよくある質問を、本書の資料に基づく短い答えと共に紹介します。

1. なぜまだイスラームに入っていないハーシム家の人々までボイコットされたのか。

ボイコットはムスリム個人だけでなく、かれを守る部族に向けられたものだったからです。真正なハディースは、クライシュ族が、アッラーの使徒 ﷺ を引き渡すまでハーシム家とムッタリブ家に対して誓い合ったと述べています（『サヒーフ・ブハーリー』1590）。

2. ボイコットはどのくらい続いたのか。

スィーラ書によれば約三年間です。預言者として遣わされて7年目のムハッラム月から10年目までです。

3. アブー・ラハブもその谷にいたのか。

いいえ。スィーラ書によれば、アブー・ラハブはクライシュ族の側につくことを選んだハーシム家ただ一人の人物でした。

4. アブー・ターリブとハディージャのどちらが先に亡くなったのか。

真正なハディースはそれを定めていません。確かなのは、ハディージャがヒジュラの3年前に亡くなったこと（『サヒーフ・ブハーリー』3896）と、スィーラ書によれば二人が同じ年に亡くなったことです。順序についてはスィーラ学者のあいだで意見が分かれています。

5. なぜその年は「悲しみの年」と呼ばれるのか。

その年、かれを最も守り支えた二人を失われたからです。家の外ではアブー・ターリブ、家の中ではハディージャです。この名はスィーラ書で広く知られています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

6. 不信仰のまま亡くなった親族のために赦しを乞うてよいか。

いいえ。かれがアブー・ターリブのために赦しを乞い続けると言われた後、アッラーは、たとえ親族であっても多神教徒のために赦しを乞うことの禁止を下されました（悔悟章 9:113、『サヒーフ・ブハーリー』3884）。しかし、かれがアル＝ムトイムの功績を覚えておられたように（『サヒーフ・ブハーリー』3139）、私たちはかれらの善行を思い出し、感謝することはできます。

7. ターイフはマッカからどのくらい離れているのか。誰がかれに同行したのか。

直線で約 63km、現在の道路で約 87km です。かれの時代には徒歩で 2〜3 日かかりました。スィーラ書によれば、ザイド・ブン・ハーリサ رضى الله عنه が同行しました。

8. 偶像アッラートとターイフにはどんな関わりがあるのか。

アッラートはサキーフ族が崇めたターイフの主な偶像で、星章 53:19 に出てきます。サキーフ族がヒジュラ暦 9 年にイスラームに入った後に壊されました。

9. カルン・アッ＝サアーリブはどこにあるのか。

真正なハディースでは、ターイフから戻るかれが我に返った場所として出てきます（『サヒーフ・ブハーリー』3231）。ヤークート・アル＝ハマウィーによれば、それはナジュドの人々のミーカートであるカルン・アル＝マナーズィルの別名です。

10.「アッラーよ、わたしはあなたに、わたしの力の弱さを訴えます……」という祈りを唱えてよいか。

この祈りは非常に有名ですが、その伝承経路はアル＝アルバーニーによって弱いと評価されています（「ターイフでの祈り：その評価」の章を参照）。似た意味の自分の言葉でアッラーに訴えることはできますが、アッラーの使徒 ﷺ の真正な伝承としてかれに帰してはいけません。

11. ナフラのジンの出来事は、ジン章で述べられているものと同じか。

真正なハディースは、かれが教友たちと夜明けの礼拝をしていたときにナフラでジンがかれの読誦を聞き、ジン章 72:1 が下ったと述べています（『サヒーフ・ブハーリー』773）。一方、スィーラ書は砂丘章 46:29〜30 をターイフからの帰り道と結びつけています。これが一つの出来事か、いくつかの別々の出来事かについては、学者のあいだで意見が分かれています。

12. なぜかれは、まだイスラームに入っていないアル＝ムトイムの保護を受け入れたのか。

ジワール（保護）の制度はアラブ社会で尊重された慣習であり、それを受け入れることは信条を損なわないからです。アブー・バクルもイブン・アッ＝ドゥグンナのジワールのもとで暮らしたことがあります（『サヒーフ・ブハーリー』3905）。イスラーム自身もこの良い価値を残しています（悔悟章 9:6）。

教訓

真正な資料に基づく答えの一つ一つが確信を強め、根拠のない話から私たちを遠ざけてくれます。この悲しみの年月のアッラーの使徒 ﷺ のスィーラは、単なる歴史ではなく、喪失と拒絶で試されるすべてのムスリムのための道しるべなのです。

教訓と結び

本書からの教訓

第一：永遠に続く不正はない。 ハイフ・バニー・キナーナで誓われたボイコットも、ついには崩れた（『サヒーフ・ブハーリー』1590）。

第二：良心ある人を尊ぶ。 クライシュ族の五人がボイコットを破棄し、アル＝ムトイムの功績は覚えられた（『サヒーフ・ブハーリー』3139）。

第三：唯一神信仰の言葉は鍵である。 アッラーの使徒 ﷺ はアブー・ターリブに一つの言葉だけを求められた（『サヒーフ・ブハーリー』3884）。

第四：導きはアッラーのもの。 私たちの務めは伝え、祈ることである（28:56）。

第五：伴侶への誠実さ。 ハディージャは生涯にわたって思い出された（『サヒーフ・ブハーリー』3818）。

第六：行き詰まっても立ち止まらない。 マッカの扉が閉ざされた後、かれはターイフに支援を求められた。

第七：慈悲は報復にまさる。 「わたしは、アッラーがかれらの子孫の中から……生み出してくださることを望む」（『サヒーフ・ブハーリー』3231）。

第八：宣教の成功は一部の人々で測られない。 人間が拒んだとき、ジンが聞いた（46:29〜30）。

第九：困難と共に安楽はある。 二度繰り返された約束（94:5〜6）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

年表のまとめ

時期（推定）	出来事と典拠
7年目のムハッラム月（西暦617年頃）	ボイコットの盟約（『サヒーフ・ブハーリー』1590、スィーラ書）
西暦617〜619年	ハーシム家がシッブ・アビー・ターリブで包囲される（スィーラ書）
10年目（西暦619年頃）	クライシュ族の五人によってボイコットが破棄される（スィーラ書）
西暦619年	ハディージャ（『サヒーフ・ブハーリー』3896）とアブー・ターリブ（『サヒーフ・ブハーリー』3884）の逝去
ハディージャの後	サウダ・ビント・ザムアとの結婚（スィーラ書）
西暦619年	ターイフへの旅（『サヒーフ・ブハーリー』3231）
ターイフからの帰り道	ナフラのジン（46:29、スィーラ書）
ターイフからの帰り道	アル＝ムトイム・ブン・アディーの保護（スィーラ書）

© 2026年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

結び

包囲されたシッブ・アビー・ターリブの谷から、ハディージャを失った家へ、臨終のアブー・ターリブのそばへ、そしてターイフからの岩の道へ――アッラーの使徒 ﷺ は最もつらい年月を**忍耐と慈悲**をもって歩まれました。インシャー・アッラー、『**預言者伝（スィーラ）**』は**夜の旅と昇天**、ヤスリブの人々との出会い、そして**アカバの誓い**へと続きます。この困難の後にアッラーが用意された安楽です。アッラーこそ最もよくご存じです。

参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『タフスィール・アル＝クルアーン・アル＝アズィーム』（28:56、9:113、46:29〜30、94:5〜6）。https://tafsir.app/ibn-katheer/28/56

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』773、1303、1356、1590、1765、3139、3231、3432、3477、3818、3820、3883、3884、3896、3905、6346。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』212、1463。https://sunnah.com/muslim

スィーラと歴史の書

イブン・ヒシャーム『アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ』（イブン・イスハークからの伝承）――ボイコット、アブー・ターリブとハディージャの逝去、ターイフへの旅の章。

サフィー・アッ＝ラフマーン・アル＝ムバーラクフーリー『アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム』――ボイコット、悲しみの年、ターイフの章。

ウィキペディア「Muhammad’s visit to Ta’if」。https://en.wikipedia.org/wiki/Muhammad%27s_visit_to_Ta%27if

ウィキペディア「Year of Sorrow」。https://en.wikipedia.org/wiki/Year_of_Sorrow

ウィキペディア「Khadija bint Khuwaylid」https://en.wikipedia.org/wiki/Khadija_bint_Khuwaylid

Wikipedia「Abu Talib ibn Abd al-Muttalib」。https://en.wikipedia.org/wiki/Abu_Talib_ibn_Abd_al-Muttalib

ウィキペディア「Hakim ibn Hizam」。https://en.wikipedia.org/wiki/Hakim_ibn_Hizam

ウィキペディア「Sawda bint Zamʿa」。https://en.wikipedia.org/wiki/Sawda_bint_Zamʿa

ウィキペディア「Muṭʿim ibn ʿAdi」。https://en.wikipedia.org/wiki/Mu%E1%B9%AD%CA%BDim_ibn_%CA%BDAdi

ウィキペディア「Taif」。https://en.wikipedia.org/wiki/Taif

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

場所、歴史、碑文

WikiShia「Shi'b Abi Talib」。https://en.wikishia.net/view/Shi'b_Abi_Talib

Saudipedia 「 Qarn al-Manazil 」 。 https://saudipedia.com/en/article/3143/history/landmarks-and-monuments/qarn-al-manazil

Medieval Middle East「al-Qarn」（ヤークート・アル＝ハマウィー『ムウジャム・アル＝ブルダーン』）。https://medievalmideast.org/place/11719

Madain Project「Jannat ul-Mu'alla」。https://madainproject.com/jannat_ul_mualla

Saudipedia「ムアーウィヤ・ブン・アビー・スフヤーンのダムの碑文」。https://saudipedia.com/%D9%86%D9%82%D9%88%D8%B4-%D8%B3%D8%AF-%D9%85%D8%B9%D8%A7%D9%88%D9%8A%D8%A9-%D8%A8%D9%86-%D8%A3%D8%A8%D9%8A-%D8%B3%D9%81%D9%8A%D8%A7%D9%86

Islamic Awareness「Inscription On The Dam Built By Caliph Mu'awiya, 58 AH / 678 CE」。https://www.islamic-awareness.org/history/islam/inscriptions/muwinsc1.html

ウィキペディア「Byzantine–Sasanian War of 602–628」。https://en.wikipedia.org/wiki/Byzantine%E2%80%93Sasanian_War_of_602%E2%80%93628

ウィキペディア「Tang dynasty」。https://en.wikipedia.org/wiki/Tang_dynasty

ウィキペディア「Sasanian conquest of Egypt」。https://en.wikipedia.org/wiki/Sasanian_conquest_of_Egypt

支援と寄付

この電子書籍はムスリムのために**完全に無料**で発行されており、**決して販売してはなりません**。研究費、ウェブサイト quranscience.my の運営費、そして次の電子書籍の発行のためのご寄付を心から歓迎します – ただし、**義務ではありません**。アッラーがすべてのご寄付を継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）としてお受け入れくださいますように。

雌牛章 2:261

مَّثَلُ ٱلَّذِينَ يُنفِقُونَ أَمۡوَٰلَهُمۡ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ كَمَثَلِ حَبَّةٍ أَنۢبَتَتۡ سَبۡعَ سَنَابِلَ فِي كُلِّ سُنۢبُلَةٖ مِّاْئَةُ حَبَّةٖۗ وَٱللَّهُ يُضَٰعِفُ لِمَن يَشَآءُۚ وَٱللَّهُ وَٰسِعٌ عَلِيمٌ ٢٦١

アッラーの道のために自分の所有するものを施す者を例えてみれば、ちょうど 1 粒が 7 穂を付け、1 穂に百粒を付けるのと同じである。アッラーは御心に適う者に、倍加してくださる。アッラーは厚施にして全知であられる。

訳：三田了一 — quran.com/2:261

サバア章 34:39

قُلۡ إِنَّ رَبِّي يَبۡسُطُ ٱلرِّزۡقَ لِمَن يَشَآءُ مِنۡ عِبَادِهِۦ وَيَقۡدِرُ لَهُۥۚ وَمَآ أَنفَقۡتُم مِّن شَيۡءٖ فَهُوَ يُخۡلِفُهُۥۖ وَهُوَ خَيۡرُ ٱلرَّٰزِقِينَ ٣٩

言ってやるがいい。『本当にわたしの主は、そのしもべの中から御心に適う者に、御恵みを豊かに与えまた或る者には乏しく授けられる。かれはあなたがたが（主の道のために）施すものはすべて返される。かれは最も優れた御恵を与える方であられる。』

訳：三田了一 — quran.com/34:39

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 2588 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، وَابْنُ، حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - وَهُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، عَنْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « مَا نَقَصَتْ صَدَقَةٌ مِنْ مَالٍ وَمَا زَادَ اللَّهُ عَبْدًا بِعَفْوٍ إِلاَّ عِزًّا وَمَا تَوَاضَعَ أَحَدٌ لِلَّهِ إِلاَّ رَفَعَهُ اللَّهُ ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「施しは財産を減らさない。人を赦すしもべに、アッラーは尊厳しか増し加えない。アッラーのためにへりくだる者を、アッラーは必ず高められる。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← アル＝アラー・ブン・アブドゥッラフマーン ← 父 アブドゥッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』善行・親族の絆・作法の書、赦しと謙虚さを勧めることの章、ハディース第 2588 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:2588

ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 1631 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، - يَعْنِي ابْنَ سَعِيدٍ - وَابْنُ حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - هُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « إِذَا مَاتَ الإِنْسَانُ انْقَطَعَ عَنْهُ عَمَلُهُ إِلاَّ مِنْ ثَلاَثَةٍ إِلاَّ مِنْ صَدَقَةٍ جَارِيَةٍ أَوْ عِلْمٍ يُنْتَفَعُ بِهِ أَوْ وَلَدٍ صَالِحٍ يَدْعُو لَهُ ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「人が死ぬと、その行いは三つを除いて途絶える。継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）、役に立つ知識、またはその人のために祈る正しい子どもである。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← ア

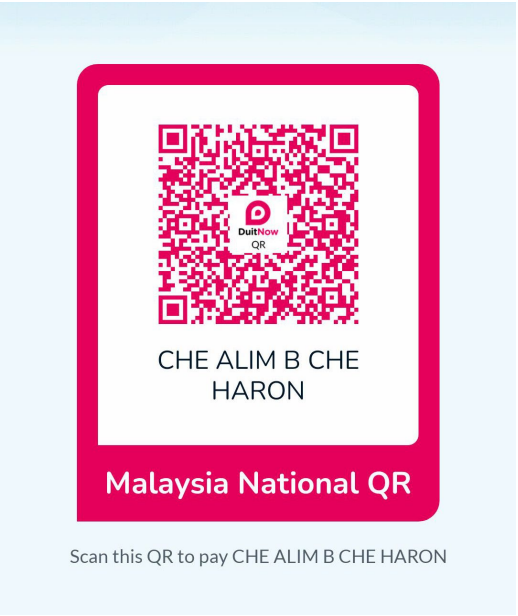
ル＝アラー・ブン・アブドゥッラフマーン ← 父 アブドゥッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』遺言の書、死後に人に届く報奨の章、ハディース第 1631 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1631

ジャザークムッラーフ・ハイラン・カスィーラ（多大なる善い報いがありますように）



上の QR コード（DuitNow）を読み取って寄付できます。



海外からのご寄付：寄付するボタンをクリックするか、こちらへ paypal.me/quranscience